

国産広葉樹材を家具・内装材へ

早生樹等の国産未活用広葉樹材を
家具・内装材として利用拡大するための技術開発

- 家具・内装材には、主に広葉樹材が使われます。
- 木材原料の8割以上を輸入に依存していますが、入手が年々困難になっています。
- 原料となる広葉樹材の国産材への転換が急務です。

地域の未活用広葉樹

(コナラ、ホオノキなど)

- ・ 木目、色、硬さが多彩
- ・ 少量・離散的な資源分布
- ・ 径が細い



- 特徴あるものづくりが可能
- △ 量的なまとまりがない
- × 用材として使いにくく、製紙・バイオマス燃料に利用

国産早生広葉樹

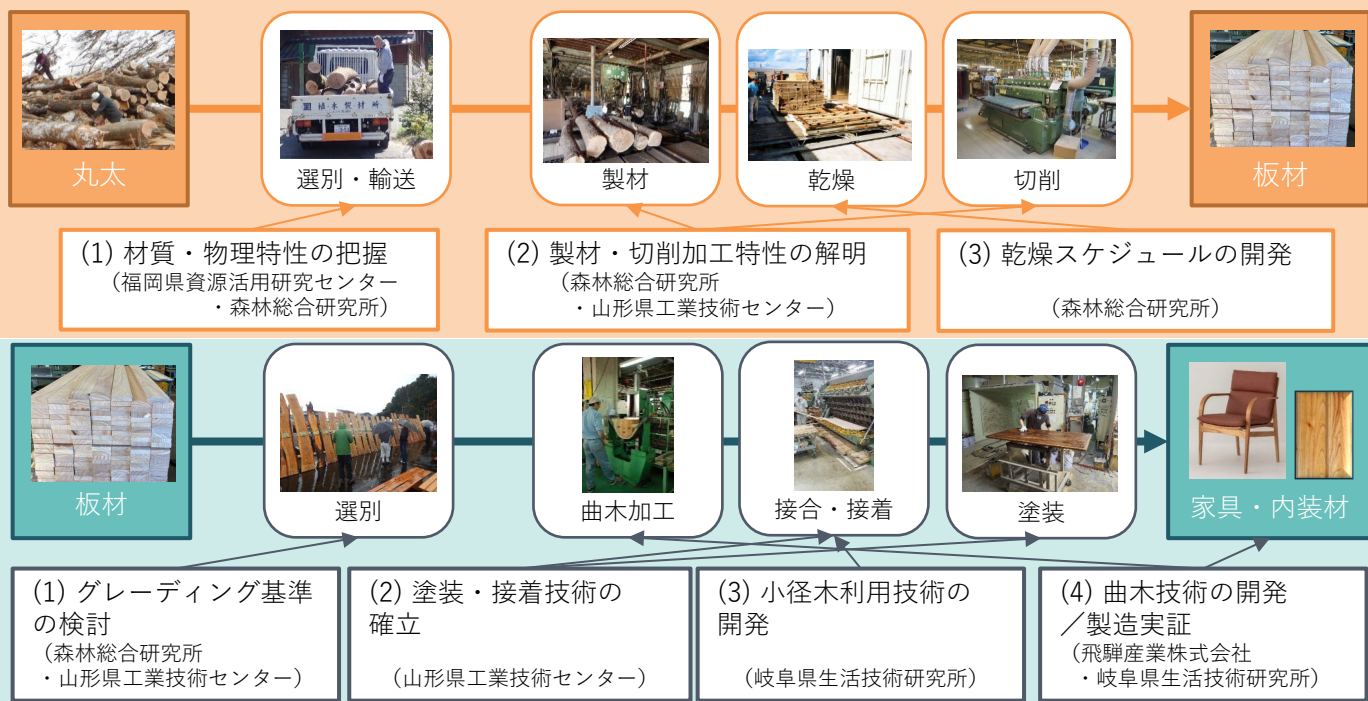
(センダン、ハンノキなど)

- ・ 成長が早い
- ・ 植栽が始まったばかり
- ・ 材の性質が不安定な若い材部(未成熟材)が多い



- 20年生程度で収穫可能
- △ 利用経験が浅い
- × 割れ、狂いの原因となる

国産広葉樹材の特性に合わせた加工・利用技術が不可欠



本研究は生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」により、山形県工業技術センター、岐阜県生活技術研究所、福岡県農林業総合試験場、飛騨産業株式会社と共同で研究を進めています。



国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所